



掖済会病院に転職して

手術室看護師 水田 有美

2015年8月から当院の手術室で勤務し、もうすぐ1年が経とうとしています。前の病院で10年程働いてきました。入職時は呼吸器病棟で勤務していましたが、病棟編成に伴いすぐに手術室に異動となりました。異動してからしばらくの間は病棟に戻りたいとよく泣いていましたが、先輩方から熱心なご指導をさせていただくうちに手術室でずっと働きたいと思うようになっていました。周術期管理認定看護師の試験を目前に勉強していた時に病棟への異動の話があり、まだ手術室で学びたいことがたくさんあると思い転職を決意しました。

神戸掖済会病院を選んだきっかけは、手術室勤務で採用して頂けたということと自宅から近いという理由からでした。面接時に手術室で師長とお話はさせて頂きましたが、手術室内

の見学をした訳ではなかったので働き始めた時は多くの戸惑いがありました。これまで一つの病院しか経験がなかったからでしょう。働き続けることが出来るのか、毎日不安に思う日々が続きました。それが今は毎日楽しく働くことが出来ています。今の私があるのは、いつも優しく接して下さいました師長や麻酔科の先生、明るく楽しいスタッフのおかげだと心から感謝しています。

前の手術室では術前に全身麻酔を受けられる全ての患者様に個別の看護計画を立てることは出来ていましたが、患者様の病室へ術前訪問に伺えない事もありました。今はほぼ毎回、術前訪問と術後訪問に伺うことができています。たった15分前後の時間かもしれませんが、直接お話を聞くことで手術室看護師として少しでも患者様のために出来る事がないかと考えて準備をさせて頂いています。術後訪問では、今後の手術看護に活かせるように実施したことへの評価をするようにしています。自分の行ったことが患者様へどのような影響を及ぼしたのか実感することが出来ずし、患者様からの言葉は毎日の励みになっています。

現在の手術室スタッフのなかでは手術室経験が長いという事でいろいろと意見を聞かれることがあります。前の病院で一緒に働いていたスタッフが、転職した先ではこれまでの経験や知識が全く活かされずしんどかったという話をよく聞いていたので、掖済会病院に転職して本当によかったと思います。私は中材業務などの担当もしていますが、気になる事やもっとこうしたい方がいいのではという小さな意見にも師長は耳を傾けてくれて対応してくれました。手術室は本当にチームワークがよく働きやすい職場で、そのよい影響がきっと患者様への手術室看護にもつながっていくのだと思います。

転職してから、プライベートの時間も充実するようになりました。今はスタッフ内でも流行しているホットヨガなどでリフレッシュし、仕事にも精神的に取り組む事が出来ています。まだまだ慣れない事も多いのでみなさんにご迷惑をおかけする事も多々ありますが、これからも素敵なスタッフたちと共に手術室で成長していきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。



このたび当院の栄養管理部 主任の岡本貴子が “We are up for self-care Award” を受賞しました。

この賞は糖尿病治療研究会(代表幹事:池田義雄先生 タタ体重科学研究所名誉所長)が糖尿病ケアに携わる医療スタッフのさらなる知識・技術の向上を図ることを目的とし創設したもので、糖尿病患者様のケアを支援する活動業績を評価する賞です。

賞を受賞した岡本より、現在の活動内容や、今後の意気込みなどをインタビューしました。
↓↓↓

1997年に管理栄養士として当院に入職してから約20年が経ちました。その間、院内での糖尿病チームの活動のたちあげ、また、糖尿病療養指導を兵庫県内に広く普及させることを目的に兵庫県糖尿病療養指導士連合会での活動に関わり、医療者向けセミナーや兵庫糖尿病療養指導士(CDE兵庫)の創設などに関わってきました。

栄養士は普段あまり表に立つことのない職種なのですが、今回、このような地道な活動が評価され、栄養士の存在をクローズアップしていただける機会をいただきました。

思い起こせば、入職当初は「糖尿病食事療法のための食品交換表」を用いてエネルギーを中心とした栄養指導を行う程度で患者様への配慮が不十分でした。

掖済会病院では、糖尿病チーム結成当初からチームに参加し、手探り状態からの出発でしたが医師、看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士、栄養士の間でスタッフ間連携が生まれ、教育入院、インスリンポンプの導入やCGM検査、糖尿病性腎症透析予防指導など全員で色々な取り組みを行ってきました。

常に新しい情報をチームで学ぶ「糖尿病チームプチ勉強会」はABI、SMBGなどの検査体験、インスリンデバイスの体験なども取り入れた実践型勉強会で、検査結果や薬剤への理解が深まるなど、栄養士の領域だけでは知りえない知識が増え、糖尿病に対する見識が増えました。

また、1型糖尿病の患者様と一緒にCGM結果と摂取栄養量の評価を行い低血糖防止対応を考えたり、患者様とともに歩くイベントのウォークラリーに参加して運動の効果を体感してもらったり、患者様と直接触れ合い患者目線で物事を考える大切さに気付くことができました。

多職種で共同できる「チーム医療」へ参加ができ見識が広がったことで自身にとって非常に大きなプラスとなり、以前より幅をもたせた療養指導を行えるようになりました。

そんな恵まれた環境に感謝しながらこれからもチームスタッフとともに患者さんに寄り添い、少しでも患者様の療養生活での不自由さが軽減されるよう努めていきたいと思っています。

糖尿病療養指導に関する活動をはじめから、患者様に寄り添い援助することの大切さ、患者さんに関わる医療者へのひたむきな想いに感銘を受け、自身の励みになっています。

その活動を認めて頂いた事を深く感謝しています。

新規部門につき昨年4月から先駆けて3名、今年1月から残る2名の加入で、各病棟に1名ずつ配置されました。

まだまだ、手探りの毎日ですが、主の業務として入院患者様のご案内に始まり、入院時の書類やアメニティの準備、退院後の外来スケジュールのお渡し等、多岐に亘り担当しています。

また、病棟看護師の事務作業を引き継ぐだけでなく、紹介患者様の退院時報告や診療情報提供書作成については作成漏れをチェックし主治医へ作成を依頼したり、医師からの直接指示で診療科に特化した事務も携わっています。

今後は外来との橋渡しや業務の見直しも含めて、患者様や病棟スタッフがより快適に治療や看護に専念して頂けるよう頑張りたいと思います。



7階北病棟クラーク 井口香奈

紹介率・逆紹介率

平成26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
紹介患者	745	648	667	702	623	716	753	610	676	711	608	754	8,213
紹介率	70.5%	66.3%	61.9%	73.2%	62.5%	76.8%	78.8%	79.1%	88.3%	74.8%	71.3%	76.1%	72.8%
逆紹介患者数	484	482	474	479	468	487	483	447	472	469	572	693	6,010
逆紹介率	45.8%	49.3%	44.0%	49.9%	46.9%	52.3%	50.5%	58.0%	61.6%	49.3%	67.1%	69.9%	53.2%

平成27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
紹介患者	768	690	751	752	620	649	787	706	751	698	750	848	8,770
紹介率	72.6%	71.9%	69.0%	72.9%	62.9%	75.4%	73.8%	83.8%	80.3%	71.6%	87.5%	78.9%	74.7%
逆紹介患者数	680	578	686	603	518	565	719	671	748	730	773	817	8,088
逆紹介率	64.3%	60.3%	63.1%	58.5%	52.6%	65.6%	67.4%	79.7%	80.0%	74.9%	90.2%	76.0%	68.9%

ご紹介ありがとうございました。

健診科 078-781-7811(代)
9:00~16:00

検査予約の問い合わせは
検査予約センターへお願いします。



神戸掖済会病院は NPO 法人 J.POSH
(日本乳がんピンクリボン運動) が推進する
ジャパン・マンモグラフィー・サンデー
(JMS プログラム) 賛同医療機関です。

10月16日(日曜日)
受付時間 9:00~15:00

受付は2階Cブロックです。
立体駐車場をご利用の方は割引いたします。
マンモグラフィー、エコー検査は女性技師が施行します。
市民健診、無料クーポン券のご利用が可能です。
マンモグラフィー+診察、エコー+診察 ⇒ ¥8,000-
マンモグラフィー+エコー+診察 ⇒ ¥11,000-